



# 議会だより

第 148 号

平成28年11月



## 全小学校で「学習発表会」開催！！

10月16日(日)に、乙部、明和、柴浜の3校で、「学習発表会」が開催されました。

たくさんの人たちに見守られるなか、児童たちは練習の成果を十分に発揮し、劇や合唱などを披露しました。

- 第3回定例会で審議して決まったこと … P.2
- 一般質問 …………… P.4
- 委員会の活動報告 …………… P.7
- 議会のうごき …………… P.8

# 平成27年度各会計補正予算など可決



## 第3回定例会

平成二十八年第三回乙部町議会定例会が九月十五日招集され、会期を一日間と決めました。

今定例会は、平成二十八年年度一般会計・各特別会計の補正予算をはじめ、教育委員会委員の任命についてなどを審議し、いずれも原案どおり可決しました。

また、一般質問では安岡議員、田中議員の二名が質問に立ち、町政に対する考えをただし、同日閉会しました。

## 審議して決まったこと

### 補正予算

#### ■平成二十八年年度乙部町一般会計補正予算(第二回)

歳入では、臨時財政対策債など、歳出では、(仮)おとべ創生株式会社出資金など一千七百九十九万四千円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ三十四億三千八百三十二万三千元としたものです。

#### ■平成二十八年年度乙部町国民健康保険事業特別会計補正予算(第一回)

歳入では、国民健康保険税の確定に伴い各現年度分の追加など、歳出では、療養給費及び高額療養費の追加など三

千二百七十七万三千円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ六億五千二百七十七万円としたものです。

#### ■平成二十八年年度乙部町介護保険特別会計補正予算(第一回)

保険事業勘定の歳入では、支払基金交付金の追加などを行い、歳出では平成二十七年度の保険給付費及び地域支援事業費の精算に伴う国庫負担金等の追加などを行ったものです。

また、介護サービス事業勘定の歳入では、平成二十七年決算見込みにより繰越金の追加などを行い、歳出では居宅介護サービス事業費でデ

サービスセンターの給湯用熱交換器の取り替え等に掛かる修繕費の追加などを行ったものです。

二千三百四十七万七千円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ五億三千二百六十五万三千元としたものです。

#### ■平成二十八年年度乙部町簡易水道事業特別会計補正予算(第一回)

歳入では、一般会計繰入金に百四十五万円、前年度繰越金に百四十五万円を追加し、歳出では、総務費・委託料に二百九十万円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ一億一千二百二十五万七千円としたものです。

## ■平成二十八年乙部町公共 下水道事業特別会計補正予算 (第一回)

歳入では、一般会計繰入金に百六十九万一千円、前年度繰越金に百六十九万円を追加し、歳出では、総務費・委託料に三百三十八万一千円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ一億七千九百万二千円としたものです。

## ■平成二十八年乙部町漁業 集落排水事業特別会計補正予算 (第一回)

歳入では、一般会計繰入金に五十五万一千円、前年度繰越金に五十五万一千円を追加し、歳出では、総務費・委託料に百十万二千円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ五千六十九万円としたものです。

# 報 告

## ■平成二十七年健康全化判断 比率の報告について

## ■平成二十七年公営企業資 金不足比率の報告について

地方公共団体の財政の健

全化に関する法律に基づく財政指標の基準をいずれも下回り、赤字も発生していない旨の報告がなされました。

また、公営企業(国民健康保険事業等四会計)の資金不足も発生していない旨の報告もなされました。

# 同 意

## ■乙部町教育委員会委員の任 命について

乙部町教育委員会委員の任期が満了となるため、次の二名が再任されました。

- ・福 士 勝 義 氏
- ・石 山 幸 康 氏

# そ の 他

## ■森林管理道村山緑線開設工 事(二工区)請負契約の変更 契約の締結について

- ・契約の相手方  
株式会社林組
- ・契約の金額  
五千百八十七万七千八百円

# 意見書を採択

## ■林業・木材産業の成長産業 化に向けた施策の充実・強化 を求める意見書(抜粋)

本道の森林は全国の森林面積の約四分の一を占め、国土保全、地球温暖化防止、林産物の供給等の多面的機能の発揮が期待されており、これらの機能を十分に発揮させるためには、「植えて育てて、伐って使って、また植える」といった森林資源の循環利用を進める必要がある。

また、森林の整備を進め、木材を積極的に利用して林業・木材産業の成長産業化を図ることは、山村地域を中心とする雇用・所得の拡大による地方創生にも大きく貢献するものである。

このような中、道では、森林の公益的機能の維持増進や次世代林業基盤づくり交付金等を活用し、植林・間伐や路網の整備、山地災害の防止、木造公共施設の整備など、さまざまな取り組みを進めてきたところである。

今後、人工林資源が本格的

な利用期を迎える中、こうした取り組みをさらに加速し、地域の特性に応じた森林の整備・保全を着実に進めるとともに、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化を実現するための施策の充実・強化を図ることが必要である。

# 議員の派遣

当町出身者との町政に関する意見交換及び交流のため、第二十四回東京おとべ会、第三十一回さっぽろ乙部会に議員をそれぞれ派遣します。

# 閉会中の継続調査

・各常任委員会の閉会中の継続調査の申し出を、決定したものです。

## ■総務民教常任委員会

- (調査事件)
- ・乙部中学校の運営状況について

## ■産業建設常任委員会

- (調査事件)
- ・農業振興対策について

## ■議会運営委員会

(調査事件)

- ・議会の運営に関する事項
- ・議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項
- ・議長の諮問等に関する事項

# 諸般の報告

第三回定例会において、会議に先立ち、議長から次の事項について報告がなされました。

- ・(株)乙部振興公社第三十七期営業報告書及び第三十八期営業計画書の提出について
- ・監査委員からの例月出納検査報告
- ・各常任委員会の閉会中の継続調査事件の報告



# 一般質問

第三回定例会で、二名の議員から、土砂災害対策について、移住・定住の受け入れ体制について、魅力ある「まち」づくりの推進と産業振興策についての質問がありました。

- 一、土砂災害対策について
- 二、移住・定住の受け入れ体制について

安岡美穂 議員

## 町民の安心安全のために

質問



災害防止法に基づいて、道が行う基礎調査の進捗状況と警戒区域・特別警戒区域について、当該地域及び周辺住民は周知されているのでしょうか。また、説明をどのようにしてきたのでしょうか。

所はいつまでに終了するのででしょうか。道としては、平成三十一年までに調査を終えるというように聞いておりますが、当該の場合のことをお聞きしたいと思えます。災害に応じた避難場所の設定や情報の伝達、避難準備・勧告等、町域防災計画に沿って、町民は詳細に知る必要があると思えますが、その対策について伺います。

## 今年度に地域防災

計画の見直しを  
小石総務課長

土砂災害防止法は、平成十一年に広島県で発生した集中豪雨により、全壊六十五棟、死者二十四名という、悲惨な事故を教訓に平成十二年五月に制定されました。その後、法施行から十年以上経った平成二十六年八月に、再度、広島県で土砂災害が発生し、三度目の改正が求められ、現在の改正土砂災害防止法が平成二十七年一月より施行されるところです。

土砂災害箇所は、土石流・地すべり・がけ崩れに分類され、乙部町においては、土石流は二十三箇所、地すべりは一箇所、がけ崩れは三十六箇所となっており、合計で六十箇所となっております。警戒区域や特別警戒区域は、基礎調査により指定基準に合致しているか、判定することから、現段階では、基礎調査済みのある二十七箇所が、警戒区域の基準に合致しており、さらに、そのうち二十一箇所が特別警戒区域を包含している区域となっており、区域指定を受けようとする場合は、道から町長に意見が求められることから、過去においては、館浦地区や豊浜地区で住民説明会を開催し、関係住民の意見を集約してきたところです。残りの基礎調査については、道が、平成三十一年度までに実施するとしていますが、スケジュール等が、明確に示されている訳ではありません。

第二回定例会の一般質問でも答弁しましたように、今年度において地域防災計画の見直しを行うこととしており、その作業と合わせて、町民が災害に備えておくことや災害が起きたときの対処方法などを説明した防災ハンドブックを現在、作成中であり、年内に町民全戸に配布したいと考えております。この防災ハンドブックにより、町民が分かり易く、災害に対する様々な情報やどのように対処すれば良いかなどの考え方を、町民皆で共有できるものと考えております。

## お願い

議会議長宛の文書や案内状などは、議長の日程調整をする必要がありますので、議会事務局に送付するようお願いいたします。

〒043-0103  
爾志郡乙部町字緑町388番地  
乙部町議会 事務局 宛

## 移住を推進

しついく上で

質問



定年退職後、のんびり田舎で暮らしたい、子どもを自然いっぱいの中で育てたいなどニーズは様々です。

一方、小さな町村においては、人口減少、空き家問題などが浮上しています。そのような中であり、風光明媚な乙部の町です。

わが町への移住を推進していく上での取り組みをどのように考えているのか、伺います。

## 広く乙部町への

移住を促す

寺島町長

乙部町の人口につきましては、一九五〇年（昭和二五年）の九千二百六十六人をピークに年々減少が続いており、現在、

四千人を下回る人口となつています。国立社会保障・人口減少問題研究所では、平成二四年に全国の自治体における人口の将来推計値を公表いたしました。本町におきましては、二〇四〇年には、現在の人口が二千三百二十七人にまで減少すると推計されたことから、本年三月に「乙部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、各種施策を推進することにより、二〇四〇年時点で三千人の人口を維持することを目標といたしました。

この総合戦略におきましては、「乙部町に新しい人の流れをつくる」という基本戦略を掲げ、移住・定住対策を実施していくこととして、昨年十一月には、東京で開催された「北海道移住フェア」に町として参加し、乙部町の生活環境や住環境等についてPRをしてきたところ

です。さらに、本年十月と十一月にも、首都圏において移住・定住に向けたイベントが開催されることから、町として参加することにより、一人でも多くの方に本町への興味を示していただけるよう、しつかりとPRしてまいりたいと考えております。

この他、昨年自治会や町内会の協力を得て、空き家の実態調査を実施いたしました。その結果、空き家の総計百四十四件に対し、健全な状態で管理されていると確認できた住宅が七十件あったことから、現在この七十件を対象に、売却や賃貸の意向確認を実施しているところ。意向確認ができた物件については、道がインターネット上で運営・管理をしている「北海道空き家バンク」に物件情報を登録し、広く乙部町への移住を促していきたいと考えております。

## 一、魅力ある「まち」づくりの推進と産業振興策について

田中義人 議員

## 商品開発・販路拡充に繋がる第一歩

質問



水産業を取り巻く環境が大変厳しい現状から、かつての「紅乙女」のブランド名で、多くの方々から人気商品として贈答品や、家庭での食材として広く愛用され、「まち」のブランド商品として定着していたことは周知のとおりであります。しかし現在は、名産「紅乙女」の生産・販売が「まち」の特産品から見られなくなつてから久しく、次なるステップも見当たらない実態であると思えます。憂慮に耐えない思いをしております。

また、農産品にいたしましたも、かつて日本農業賞を受賞した食用百合

根をはじめ、アスパラガス、イチゴなど町の主要農産物として、さらには契約栽培によるブロッコリーが「まち」の名産として位置づけられると考えております。いずれの農産品を見ましても、旬の物が多く、年を通しての特産品の開発は、一朝一夕には成し遂げることが困難であると思えます。常に日頃から弛まぬ努力が求められるものがあります。私は農・漁業の生産物に「付加価値」、即ち加工することが商品開発・販路の拡充の第一歩かと思えますが、町を取り組みについて伺います。

一次産品の  
高付加価値化を図る  
寺島町長

創生先行型交付金を活用し、乙部町の黒千石を使ったモナカの商品開発事業に対し補助金を支出し、町内事業者の取り組みを支援してまいりました。

今後は、この地域商社を活用し、さらなる商品開発を進めるとともに販路の開拓などを行い、一次産品の高付加価値化を図っていきたいと考えております。

心にふるさと寄附を募ってまいりました。ご指摘のとおり、全国自治体のふるさと寄附の取り組みでは、地域の特産品を返礼品として取り扱う事例が一般的となっていることから、乙部町においても、地域内の特産品等を返礼品として寄附者に贈る取り組みを、平成二十六年から開始したところとす。

取り組みが必要であると考えています。町としては、貴重な財源の確保であり、今後求められていく子育て支援や介護予防事業の推進、さらには産業の振興にと、自主財源の使途が可能になると考えています。

ふるさと納税と  
産業振興策  
質問



ふるさと納税制度は、ご承知のように応援したい自治体に寄付すると、税金が軽減されるとして、二〇〇八年に都市部に集中する税収を地方へ配分し、地域の活性化につなげる狙いで創設された制度であるとされています。制度の創設以来、多くの自治体が競って「まち」の名産物を返礼品として贈り、今や全国の市町村で多かれ少なかれ取り扱いがなされていると思います。

町では振興基金に積立され、その運用を図るとされていますが、現状では未だ緒に就いたところかと思っております。今後の具体的な取り組みについて伺います。

また、平成二十八年度の四月からは、ふるさと納税総合サイトの「ふるさとチョイス」を活用し、寄附金額により一万円、三万円、五万円、十万円コースを設定し、コース毎に、特産品のセットをつくり、そのセットを選べるようになる仕組みを導入したことから、主に特産品を求めている寄附事例も見受けられるような状況となっております。

制度を活用し  
効果ある産業振興を  
小石総務課長

さらに、本年十月を目標に設立する予定となっている地域商社、「おとべ創生株式会社（仮称）」においては、乙部町固有の在来品種である大茱白乙女や乙部大黒、黒千石といった大豆に着目した商品開発も行っていきたいと考えていると

現在、「ふるさと寄附」というよりは、「ふるさと納税」という表現が多くなっておりますが、ここでは、「ふるさと寄附」という表現で統一させて頂きま

す。ふるさと寄附金制度の制定以来、乙部町においては、乙部会の会員など、乙部町にゆかりのある人を中

さらには、六月からクレジット決済が可能となり、ふるさと寄附の納付手続が容易になったこともあり、今年度現在までに、寄

乙部町の特産品につきましては、議員からのご指摘のとおり、全国的に有名であった釣りタラコ「紅乙女」については、残念ながらスケソウダラ漁の不振、さらには漁協の経営方針により、生産が中止となりましたが、昨年からは、町内進出企業と連携を図り、乙部産のタラコを使った新たな乙部ブランドの構築に向けて取り組んでいるところとあります。乙部町のブランドタラコを定着させるとともに、漁協経営の安定化を図るためにも、スケソウダラ漁の回復を願っているところとす。

農産物におきましては、アスパラガスやブロッコリー、イチゴなど、一年を通じて販売できる特産品が極めて少ないものと認識しておりますが、このような状況の中、昨年度は、地方

地方創生を進める上でも、また町の財源を確保することからも積極的な

取組を進める上で、また町の財源を確保することからも積極的な

取組を進める上で、また町の財源を確保することからも積極的な

附件数は百五十件を超え、六百五十万円の納付があったところだ。

1点目の質問に町長が答弁しましたように、特産品の開発にも積極的にてがけることとしており、商品化できた特産品を既存の返礼品リストに加え魅力ある仕組みづくりをしていこうと考えております。

また、この取り組みが地域の特産品の宣伝効果や販路拡大につながることも期待しているところだ。ふるさと寄附金は、収納する「ふるさと創生事業推進基金」に積み立てられ、ふるさと寄附金の目的に沿った有効な事業の財源に充当することとしておりますが、産業振興に寄与するための財源をふるさと寄附金だけに頼るのではなく、現在、取り進めている地方創生事業などの補助金や有利な制度を合わせて、活用することにより、効果ある産業振興に寄与できるものと考えておりますので、ご理解願います。

## 委員会の活動報告

閉会中に行われた各常任委員会での所管事務調査結果が、第三回定例会に報告されましたので、その要旨をお知らせします。

### 総務民教常任委員会

#### ■調査の経過

平成二十八年七月二十一日関係職員等の出席を求め、現地で、学校長より説明を受け調査した。

#### ■調査の結果又は概要(意見)

町内各小学校の運営状況については、各小学校(明和・栄浜・乙部)ごとに、しっかりとした教育目標を定め、地域との連携を図り、地域の実情に即した形で、適正かつ、意欲的な取組みを確認することができた。また、少人数校での工夫ある取り組みについても確認することができ、児童は落ち着いた態度で授業に集中し、良好な学習環境が保たれていた。

更に、児童の登下校時の安全にも十分な配慮がなさ

れていた。

学力向上に関しては、各学校とも、問題・課題解決に向けた体制づくりがなされていくことから、今後更なる学力の向上の成果に期待したい。

いじめ・不登校等については、トラブルへの早めからの対応に努められていることから、引き続き子どもたちへの目配りなど、教職員一丸となって未然防止に努められたい。

施設環境においては、一部老朽化は見受けられるが、施設内外とも良好な状況で管理されている。

今後においても、地域に根ざした特色ある学校づくりを目指し、地域との連携を保ち、教職員も地域との積極的な交流を図りつつ、より一層信頼される学校づくりの推進に努められたい。

### 特別委員会が設置される

#### ・決算特別委員会

第三回定例会において、平成二十七年年度一般会計をはじめ各特別会計の執行、基金の運用状況を慎重に審査するため八人で構成する決算特別委員会が設置され、閉会中の継続調査になりました。

- |       |       |
|-------|-------|
| 委員長   | 明石 修二 |
| 副委員長  | 工藤 智司 |
| 委員    | 安岡 美穂 |
| 田中 義人 | 伊藤 鉄吉 |
| 米坂 貞男 | 阿部 一  |
| 林 義秀  |       |



▲ 総務民教常任委員会 (明和小学校)

### 産業建設常任委員会

#### ■調査の経過

平成二十八年七月二十七日関係職員等の出席を求め、資料や現地での説明を受け調査した。

#### ■調査の結果又は概要(意見)

①林道整備の状況について 産業課担当者及び建設課担当者により、事業概要等の説明を受け、現地調査を行った。

平成二十八年において、五件の林道整備が計画されており、事業概要等の説明を受け、現在着工中の「魚つきの森線」・「村山緑線」の二件について現地調査した。

#### (ア)「魚つきの森線」

栄野地区の町有林等、約百二十四ヘクタールの森林の整備が可能となるものと考えられることから、今後、森林の持つ多面的機能をより効果的に発揮できるように森林整備計画の推進に努められたい。

施工において、林道入り口付近が、河川に接していることから、工種工法については、慎重な対応をお願いしたい。

①「村山緑線」

姫川地区の民有林等、約百二十三ヘクタールの森林が整備可能と考えられることから、今後の一層の森林整備が図られるものと期待する。

林道整備事業は、地域の雇用の確保を図る上からも、関係機関との連携を図りながら、継続的且つ安定的な事業展開に努められたい。

②観光関連施設の整備状況について

産業課担当者より、今年度整備された各施設の状況について説明を受け、現地調査した。

既存施設の補修、新設看板・誘導案内板・遊具等の整備状況について現地調査



▲ 産業建設常任委員会(7月27日)

した中で、乙部町の観光施設の核となる「元和台海浜公園」・「野外緑地広場」等について、今後、更なる利用者の拡大に向けての取り組みが必要であると考えられる。町内の各地での施設整備も大切と思うが、元和台に特化して整備することも、一つの方法と考えられる。その場合、遊具等の整備において、広く利用者の意見等も取り入れて整備することも必要と考える。

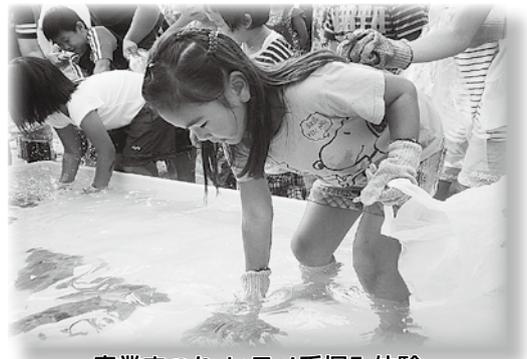
町内には、魅力ある施設やポイント等が数多く存在しているが、その情報量が少なく、情報発信が今後最も重要になると考える。

先の継続調査報告でも触れた、「貝子沢化石公園」の改修についても、再考願いたい。



議 会 の う ご き

- H28. 6.20 高規格道路「木古内・江差間」整備促進協議会総会 (江差町)
- H28. 6.27 平成29年度管内懸案事項要望 (函館市・札幌市)  
～ 6.28
- H28. 7. 5 道議長会主催議員研修会 (札幌市)  
～ 7. 6
- H28. 7.21 総務民教常任委員会
- H28. 7.27 産業建設常任委員会
- H28. 8. 1 乙部町戦没者慰霊祭
- H28. 8. 7 元和台マリンフェスティバル
- H28. 8.14 成人のつどい
- H28. 8.22 議会広報研修会 (札幌市)  
～ 8.23
- H28. 8.28 第43回乙部町産業まつり
- H28. 8.30 檜山町村議会議長会・渡島檜山町村議会議長連絡会議 (八雲町)
- H28. 9. 8 総務民教常任委員協議会・常任委員会
- H28. 9. 8 産業建設常任委員協議会・常任委員会
- H28. 9.12 議会運営委員会
- H28. 9.15 平成28年乙部町議会第3回定例会



産業まつり ヒラメ手掴み体験

※この欄は議長や議員が出席した行事についてお知らせしています。



平成二十八年第二回定例会が六月十六日、会期一日間で終了しました。

八月からの猛暑は、九月後半まで続きましたが、最近朝晩めっきりと寒くなりました。

山々の木々の葉も徐々に落ちはじめ、足早に冬が訪れようとしております。

何かと忙しい時期ではありますが、健康管理には十分気をつけましょう。

今後とも、議会の様子を「分かりやすく、読みやすく」をテーマに編集に努めてまいりますので、町民の皆さんのご意見をお聞かせ下さい。

【議会だより編集委員】

- 委員長 明石 修二
- 副委員長 工藤 智司
- 委員 安岡 美穂
- 委員 寺島 努